

令和3年度第4回 旧国立駅舎運営連絡会議事録（要旨）

日 時：令和3年10月6日（水）19時00分～21時00分

場 所：国立市役所3階 第1、第2会議室（ウェブ会議）

※事務局は第1会議室より参加。傍聴席は第2会議室に設置

出席委員：磯部委員、磯前委員、落合委員、佐藤委員、鈴木委員、中村委員、藤田委員、藤本委員、洪委員、宮崎委員

欠席委員：秋田委員、木村委員

事務局：国立駅周辺整備課 関野課長、外立係長、菱沼主査、藤堂主任、後藤主任
旧国立駅舎まち案内所 磯貝チーフ

記録（要旨）

1. 開会あいさつ

鈴木会長より開会の挨拶があった。

2. 旧国立駅舎運営状況について

事務局より「【資料1】旧国立駅舎利活用レポート2021vol.7 7-9月度」のとおり報告した。

3. 前回会議の進捗について

<食チーム進捗報告>

（磯部委員）企画を凍結することにした。天下市が中止になる代わりに旧国立駅舎で参加店への誘客イベントを実施することがわかった。開催時期が「食チーム」のイベントと同時期であったため、先方から時期をずらせないか打診があった。天下市と一緒にイベントを実施する道もあるのではと考えたが、ここは相手に敬意を払うということもあって12月は先方に譲ることにした。食チームのイベントは12月を逃すと、くにたち野菜の生産や出荷のスケジュールの兼ね合いからしばらく実施できないため企画自体を一旦凍結と結論づけた。ただし、今回のイベントを企画する中で商業協同組合とは関係性を築けたので、春以降に再チャレンジできるといいかなというように考えている。

<スポーツチーム進捗報告>

（鈴木会長）前回会議後にスポーツチーム内でスポーツである必要があるのかという議論になった。なぜスポーツにしたかという、広場をどれくらい自由度で活用できるのか実験してみるというのが趣旨であった。その趣旨に立ち返ると、広場開放の機会に今後市民の人たちがこの広場をどのように使っていきたいか考え、その考えを形にできるイベントがいいのではという話になり、2種類企画を考えてきた。

～資料 2-3 に沿って企画 2 種（①ウォールメッセージ、②広場作りワークショップ）について説明～

後ほど、この 2 企画を実行するか否かについてご意見や質問をいただければと思う。

4. 旧国立駅舎周辺の検討について

事務局より旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案（概要）および、市民アンケートについて「資料 3」、「資料 3-1」のとおり説明があった。

（事務局）「資料 3-2」のアンケートについては本日委員の皆様にごテスト的に一度回答していただき、アンケート内容を校正したいと考えている。

（鈴木会長）旧国立駅舎東西広場等整備基本方針案を策定するためにアンケートを実施する予定であり、今回の連絡会ではそのアンケートについて予備調査のような趣旨で委員に回答してもらい質問項目等についてももっとこうしたらよいといった意見をいただきたいということであった。

これから 15 分ほど時間を設けるので各自アンケートに回答していただきたい。その後、3 つのグループに分かれて議論する流れである。

～アンケート回答時間 約 15 分～

<ブレイクアウトセッション 約 7 分>

3 グループに分かれてアンケート内容について議論した。

【主な意見】

全体を通して

- ・問 1 でコンセプト、問 2 で使い方、問 3 でデザイン、問 4 でアクティビティなど設問を分けたほうが良いのではないかと
- ・思ったより頭をつかう。考えさせられるのであつという間に時間になってしまった
- ・アンケートに協力することで自分に何が返ってくるのかを示すべき。「基礎資料になる」をもう少し具体的にこういう使われ方で役に立っていくということを説明すべき
- ・アンケート結果が整備方針になっていくという重要度を考慮すると短時間すぎて聞くべき事項に漏れが生じるかもしれない。聞くべきことを精査する必要がある
- ・この設問を OK にするとこっちの設問も OK になるのかなと行ったり来たり考えてしまった
- ・「特に大切にしたいものを教えてください」とあるが、レベルを問われているというのが正しい。「こうゆう視点で考えたときに 5 段階でどのレベルと考えますか」と聞く方がいい。特に大切にしたいものと聞いてしまうと設問同士でどの設問が大切なのかと勘違いしてしまう人

がいるのでは。

- ・※の意味がわからず、混乱しました。

1 整備のコンセプトや視点について

問 1

- ・～の空間、～の拠点、～の創造と質問に統一性があったほうが良いのでは
- ・①抽象的。車がなくなる？自転車が走れなくなる？
- ・②の「国立市にしかない景観価値」はハードル上げ過ぎではないか、「国立らしい」とか、別の言い方が良いのではないか
- ・④自由に使わせてもらえるということ？ソフト面の方が大きいのでは？
- ・①と④ともに「楽しく／楽しみ」というワードが両方に入っているのはどうなのか、特に①の「安全に楽しく」がちょっと想像できなかった
- ・⑥連携の結果どうなるかがイメージできない。屋台が立つ？
- ・問 1, 2 のコンセプトを聞いている設問はほとんどの人は 4, 5 に○付けるのでは。そうするとこれをすべて満たす空間とはどんな感じだろうと考えてしまい、筆が止まって時間になってしまった。

問 2

- ・この質問からどのように方針に反映できるイメージが湧かない
- ・「コンセプト」と「視点」の違いがぱっと判らない
- ・①の「シンボルとして際立つ」だと強すぎないか。「シンボル性を損なわない」「景観を損なわない」のような言い回しが良いのではないか
- ・④、設備の具体例があると分かりやすい
- ・④何もないのが一番使い勝手がよいのでは？その場合の答え方は？
- ・問2と問3に、両方に緑の話が出てるのが、ちょっと違和感あった。整備計画上、分けて考えとしても、市民の意見としては、問2と問3を一緒に聞いた方がすっきりするかもしれませんね。

問 3

- ・③デザインは大切だが、大切と言うことで何かを作ることにならないか？
- ・②と④が矛盾していることなのが気になった
- ・③「周囲と調和～」、円形公園の周囲は「道路と調和」という意味にとらえる人がいそう
- ・問3①は、アクセスの安全性のことと、イベントで活用することとが、まだ混ざったままです。イベントで活用しやすいかどうかだけ聞けばいいと思う。

2 整備後の東西広場、円形公園の利用について

問 4

- ・東西広場と円形公園がごっちゃになっていてわかりづらい
- ・円形公園も日常的に使えるものとの印象を与える
- ・「読書ができる」「休憩が出来る」「絵を描くことができる」この3か所は何が違うのかわからない。自分がしたいことを選べばいいのか？
- ・7の「昼寝ができる」は、ホームレスや駅前ベンチで寝ている人を想起させるのではないかと考えた
- ・「日常的な利用について」の選択肢に「一人になれる」「友人と過ごす」みたいなのがあってもいい
- ・商業的なイベントの開催のこととか、問 1⑥ではあったが、「非日常的な利用について」の選

択肢にそういったことが書かれていないので、天下市とか産業祭といったものとかは該当しないのかなと疑問に思った

- ・問4は、全部丸をつけてしまいました。5つ選ぶとかがいいですかね？また、ここに自由記述を付随させるといいと思います。「他にこんな使い方がしたいというのがあれば教えてください」のようなものがあるとよい。

3. 東西広場、円形公園の整備の進め方や整備後の管理運営について

問5

- ・この質問から方針にどのように生かせるのか分からない
- ・①②③の項目の質問のバランスが悪い、何が大事なのか種別が違うと思う
- ・今後の整備において質問項目をさらにブラッシュアップしてほしい
- ・問5②のデザインという言葉は、機能のこととかプロセスのこととか、全部含んだ概念ですよ。デザインの美しさ、となっていたら、見栄えのことなのかな、と思いきやすいですけど、それでもやっぱり曖昧ですし、美しいだけが見栄えのよさでもないです。

問6

- ・この項目自体、必要性があるのか
- ・質問の内容が市民の方にもわかりやすく質問項目をブラッシュアップしてほしい
- ・円形公園自他も管理運営するよう思えるため円形公園は削除したほうが良い
- ・配慮というより運営主体はどれか？の順位付けでは？1, 2, 3の順をつけさせる方が望む回答を得られるのでは？その一方、運営主体なんて考える一般市民はいるの？という気もする。
- ・問6は、普段公共施設の運営等に詳しくないと想像がしづらい部分があると思う。あわせて、「どんなことに配慮」という質問に対して、運営の種類を聞くのはちょっと違和感があるかなと思う。
- ・特定の利用者だけでなく、市民が自由に安心して使えること（公平性の担保）を追加しては。
- ・これまでの利用に縛られず自由な発想で広場が活用されること（民間のメリット）を追加しては。
- ・住民が積極的に関わること（これは官民どちらにもかかるが、運営時の仕様書に影響する）みたいな文言のほうがわかりやすいと思う。
- ・問6① 「民間のノウハウを活かした管理運営を担うこと」のほうが良い 民間が主導することのメリットを伝えたほうが良い
- ・問6は、配慮、という表現が、適切でないように感じました。

問7

- ・「新しい視点」の言い回しが分かりにくかった

問8

- ・自由記述が難しい。委員の皆さんの感想をうかがっていると、各問で考えてしまった、という声が多かったので、その考えた頭で、それぞれの設問毎に自由記述があるといいかもしれない。最後にも、なんでも聞かせてください、という趣旨の自由記述をつけるといい。

4. あなた自身のことについて

F

- ・市民の方へのアンケートで、6「住んでいる」はおかしい
- ・「通過する／通り過ぎる」「北側に行く」のような選択肢がほしい

G

- ・「見たことがありますか。」は、EやFと合わせるなら「見たことがありますか？」

- ・「旧国立駅車の両側の～」→「旧国立駅舎の両側の～」
- ・4の介助・介護の要不要は、家族と本人で分けて聞く(本人が必要、自分以外に必要な家族がいる、家族に必要な者はいない、の3項目)のがよいのでは？

(鈴木会長) 本日は時間の都合上これ以上議論することはできないが、なにか伝え忘れたこと等があれば事務局まで連絡いただければと思う。

5. 旧国立駅舎の将来像の実現に向けて

事務局より「11月、12月の東西広場開放イベント進捗状況」および、「広場開放時のベンチ等の配置」について「資料4」のとおり説明があった。

(鈴木会長) 本日は残りの時間を使い

- ①旧スポーツチームの2企画(ウォールメッセージ、広場作りワークショップ)の実施について、
- ②東西広場のベンチ・パラソル・テーブル等の配置案について話合えればと思っている。

それではまず、旧スポーツチームの2企画について質問やご意見を伺いたい。

- (宮崎委員) ワークショップのミニチュアは面白いと思ったと同時に、どのように実行するのかが気になった。
- (磯前委員) ウォールメッセージは期間中常設できるので様々な人が参加できて良いと思った。ワークショップは参加者数が限られる印象があるので、土日しか行けない人や平日しか行けない人など制約がある人でも参加できる常設型の方がよいと思った。
- (中村委員) 私もワークショップよりウォールメッセージの方が参加者が多くてよいと思った。お金がない中でどのように実行するのかは課題だと思う。
- (落合委員) 面白い企画だと思う。広報のやり方を考えていきたい。
- (磯部委員) イベントに参加した方の意見が今後どのように使われ生きていくのかと、アンケートとの関係性、つまり相互にシンクロしていくのかあるいは補完し合うようなものなのかを明確にするといいイベントになると思う。あとは、お金とマンパワーの課題をどう解決するかだと思う。
- (佐藤委員) 2企画両方とも実施するのは大変なので、どちらかを選ぶということであれば委員の皆さんがおっしゃるように参加者数の観点からウォールメッセージを選ぶ方が良さそうである。
- (藤田委員) JRが実施したウォールキャンパスの時の自身の記憶では、イベントに参加すること自体が楽しくて、意見がどう使われるかまでは意識していなかった。今回連絡会でウォールメッセージをやるのであれば意見がどう使われるかは大切だと思う。
- (藤本委員) 検討段階ではワークショップも見栄えが面白くていいのではという話が出ていたが、皆さんのお話を伺って厳しいのかなという印象を持った。ウォールメッセージは予算、マンパワー、意見をどう反映するかという課題があるものこちらの

検討していくことが現実的だと思った。

(洪副会長) ウォールメッセージとワークショップでは参加者の層が異なると思っている。ウォールメッセージは誰でも簡単に参加できるので当事者性があまりないかもしれない。一方でワークショップは参加者は少ないかもしれないが意図して参加する人達が時間をかけて考えた末の意見が得られる。どちらもメリット、デメリットがあると思う。イベントで出てきた意見は整備方針に反映されるのか事務局に確認したい。

(事務局) イベントで出た意見も参考にして整備方針を作成していくつもりである。

11月23日から28日まで旧国立駅舎の広間で市主催の駅前報告会という国立駅前整備事業の進捗を広報する企画がある。この企画の中で東西広場の活用の仕方について来訪者が自由意見をシールに書きボードに添付するという案があるので情報提供しておく。

ワークショップは旧国立駅舎屋内で実施する可能性はあるか。

(鈴木会長) スペースが限られているので参加者数がより制限される印象である。

(洪副会長) 屋外でやれば東西広場を直接見ながらできる。また旧国立駅舎に来館する人と駅前を通行する人では微妙に層が違う気がする。屋外でやることで全く興味がない方でも何をやっているんだろうと関心を持ってもらえる効果もあると思う。

(事務局) 承知した。

(鈴木会長) ウォールメッセージ、ワークショップいずれの企画も、いただいた意見を編集してどうアウトプットするかも大切だと思う。例えばワークショップであれば「こういう経緯でこんなことをやって、参加者からはこんなメッセージが寄せられました」と報告書のようなものを編集する必要があるがそれを誰がどうやるかが大事であり、その編集者を運営連絡会が担うのもありかと考えている。

様々な意見が出てきたが、このあたりで11、12月になにかしらのイベントをやるか否かだけは決めたいと考えているが各委員どのように考えるか。

各委員の意見から、ウォールメッセージを実施する方向性を確認した。

(鈴木会長) 広報手段である市報のスケジュール等を鑑みると今後どのような進め方をすればよいか事務局に確認したい。

(事務局) 市報10/20号で東西広場開放の記事が掲載されるがそれに間に合わせるとなるとイベント内容を確定しきれないかもしれない。

(鈴木会長) 現状の原稿案を提示していただき、私と洪副会長、佐藤委員の3名でどのような表現で掲載するか考えるのが現実的かもしれない。

(事務局) 承知した。

(鈴木会長) 続いて、東西広場のベンチ・パラソル・テーブル等の配置案2グループに分かれて検討したい。

<ブレイクアウトセッション>

【グループ1】

- ・コロナの感染状況が悪化した場合と感染が落ち着いている場合の2パターン考えた方がいい
- ・多くの方が通行するので導線を確保すること、また点字ブロックと干渉しないようにしなけ

ればならない。

- ・ベンチやテーブルは壁に寄せたほうが心理的に座りやすいのでは。真ん中にポツンとあると導線の問題もあるが座りづらい気がする。

【グループ2】

- ・4月の緑化円形ベンチの時は体を外に向けて座っていたが、今回はテーブルを囲んで内側に向かって座るので知り合い同士で座ることが多くなることが予想される。そうすると滞在時間が長くなるかもしれない。

(事務局) いただいた意見を参考にレイアウト等を考える。期間が1カ月あるのでいくつかのパターンを試しながらでもいいかもしれない。

6. その他

次回運営連絡会の開催は12月になる旨を確認した

以上